

[3] 各クラスの実践

(1) 1組「はだかであそぼう」の実践

ここでは、P28で述べた「夏だ！夏だ！」の单元における1組の実践を述べる。

① 学級の実態

本学級は、1年生3名（男子2名、女子1名）、2年生1名（女子）で編成されている。発達段階は、1歳前半から3歳前半の自我の誕生から自我の拡大、自我と自己主張の矛盾拡大期の子どもたちである。4名とも様々なことに興味・関心を持ち、好きな活動については楽しむことができるが、遊びは単調になりがちで、全身をつかったダイナミックな活動はあまり見られない。このような時期の子どもたちには、先生や友だちと一緒に思い切り遊んだり、遊びを中心にしながら生活経験を広げたりして、より楽しく充実した生活をつくっていくことが大切であると考えた。

② 指導の方針

- ・楽しさや達成感をみんなで共感し合うために、好きな活動をたっぴりと取り入れながら学習を展開する。
- ・自主的に活動できるように、子どもたちの興味関心のある題材選びをし、様々な道具や素材を用意する。
- ・見通しを持って活動できるように、絵カード、写真、実物などを効果的に提示するとともに、繰り返し学習できるようにする。

③ 実践事例 — 1時間の授業を通して —

上のような指導方針のもとに、以下のような授業の展開を行った。

单元名 はだかであそぼう！（大单元「夏だ！夏だ！」の中の小单元）

单元目標

- ・はだかになって、思い切り夏の遊びを楽しむ。
- ・先生や友だちと一緒に、夏の遊びを楽しむ。
- ・全身をつかってダイナミックに遊ぶ。
- ・自分なりに考えたり、選んだりしながら遊ぶ。

单元設定の理由

本单元は、小学部全体で取り組んでいる「水遊び」や「なつまつり」の活動も含めた大单元『夏だ！夏だ！』の中の小单元である。本学級の児童は全員が、砂遊び・水遊び・絵の具のぬたくりなどの活動が好きである。それらの活動を、裸になってダイナミックに行うことで、友だちとの関わりや、自主的な活動を広げていくことができると考えた。この单元は「水で遊ぼう」、「粉で遊ぼう」、「絵の具で遊ぼう」、「泡で遊ぼう」、「お風呂で遊ぼう」という内容で、それらの感触を楽しむだけでなく、魚つりやシャボン玉なども取り入れたり、みたて・つもりの活動も大切にしたりしたい。夏というテーマで子どもたちの好きな活動をたくさん繰り広げていくことで、子どもたちのわくわくした気持ちを高め、楽しい学校生活を用意していくことができると考えた。

本時の題材名 おもいきりペタペタしよう！

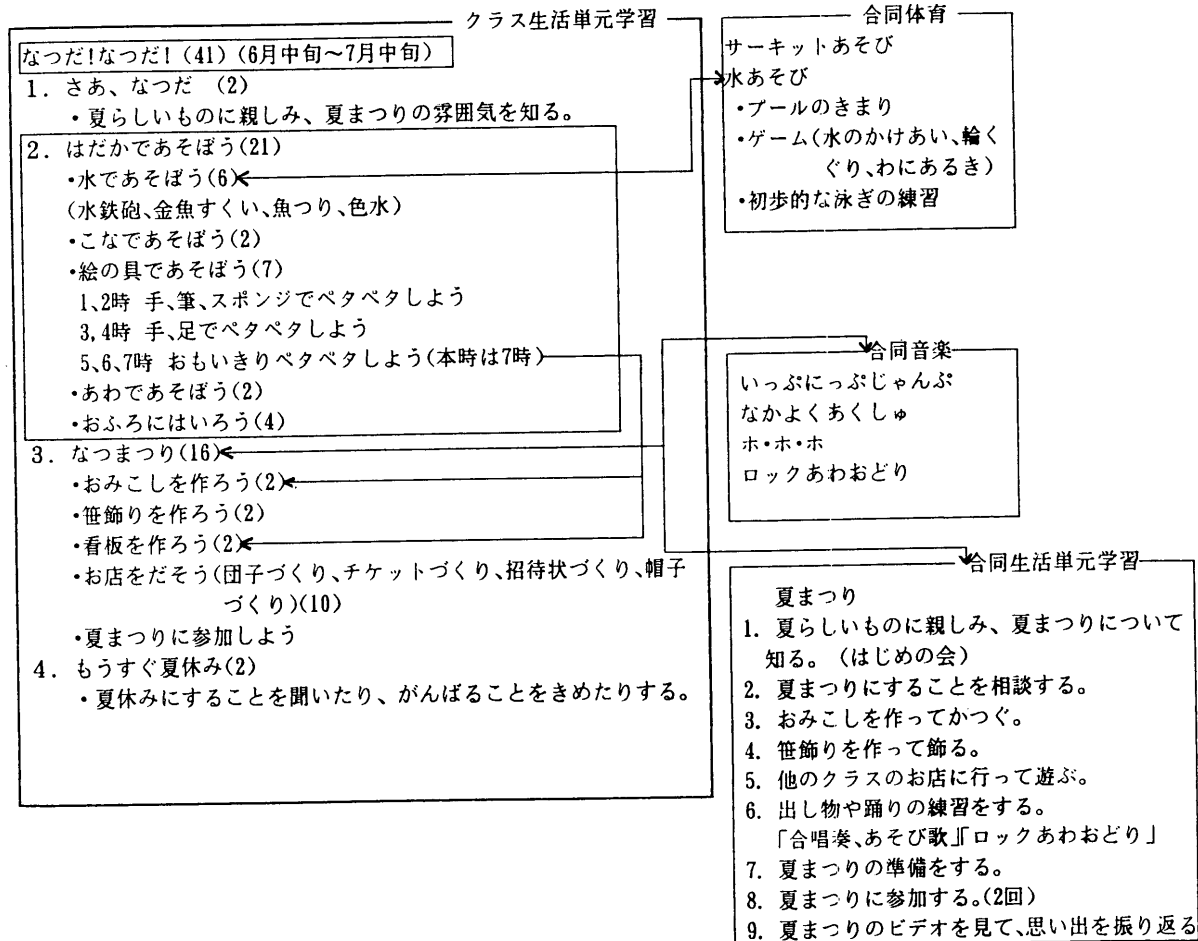
本時の題材観

子どもたちは今まで、絵の具を手や筆やスポンジを使いながら紙や身体に、また直接手や足にぬりたくる活動を経験している。これらの活動を繰り返すうちに、教師が「はだかであそぼう」と声をかけたり、教師の準備する絵の具や筆を見るだけで、子どもたちは目を輝かせて服を脱ごうとしたり、手を伸ばして「早くやりたい」と要求したりするようになった。しかし、活動自体はまだ目の前の小さな動きにとどまっているので、今までよりもダイナミックに、しかも先生や友だちと関わり共感しあいながら、十分に楽しみきることをねらいとした。

本時目標

- (1) 思い切り絵の具で遊ぶ。
- (2) 先生や友だちと関わって楽しむ。

指導計画



* 「2. はだかであそぼう」と「3. なつまつり」は関連しながら、並行して行う。

学習過程

学習活動	教師の意図・支援
<p>・「かいかいかい」「おおきなあれ」を歌う。</p> <p>1. はだかになって、絵の具遊びをすることを知り、遊びの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はだかになる。 ・持ち物をもつ。 ・移動する。 <p>2. 絵の具遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手や足に絵の具をつけて紙にべたべたとつける。 ・紙や身体にはけて絵の具をつける。 ・スポンジを使って遊ぶ。 ・モップで色をつけてみる。 ・腹に絵の具をつけて紙に倒れてみる。 ・全身に絵の具をつけて壁の紙に色をつけてみる。 ・友だちや先生に絵の具をつけて遊ぶ。 <p>3. ビニールプールへ移動し、身体についた絵の具をおとす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポンジでゴシゴシこする。 ・色がついた水で遊ぶ。 	<p>・楽しい雰囲気の中で歌をうたったり踊ったりして、本時に対する期待感を高めたい。</p> <p>1. ペープサートで今日の遊びを知らせることで、自分からはだかになったり遊びの用意をしたりする雰囲気を作りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分の好きな色の絵の具を持ったり、バケツやはけをもったりすることで、これから始める遊びへの期待感をさらに高めたい。 ・教師の一人は、絵の具遊びの場所へ待機し、出てくる子どもたちへ楽しそうに呼びかけ、子どもたちの早く遊びたいという気持ちを高めたい。 <p>2. 子どもたちが自由にいきいきと絵の具遊びに取り組めるようたくさんの材料を準備し、楽しく遊べる場の設定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が没頭して遊べるように、教師自らが絵の具遊びを楽しみたい。 ・遊びが発展するように、絵の具のついた手で握手を求めたり、「～さんにつけてみたら?」「～さんの遊びおもしろそう」などの声をかけたりしたい。 ・紙には、白のクレパスでアンパンマンやバイキンマンの絵を描いておき、色をつけると浮き上がるようにすることで、楽しさと活動意欲をさらに広げたい。 ・本時では水遊びより絵の具遊びに没頭して欲しいので、ビニールプールや水道の蛇口は見えないようにしておきたい。 <p>3. 身体についた絵の具を落とすことも感触遊びのひとつとして楽しみながらできるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールで遊び始めた児童に注目するよう声をかけ、自然に後始末へ誘いたい。 ・身体の絵の具が落ちると同時にプールの水が変わるおもしろさにも気づくように声をかけたい。 ・水あそびをしながら、子どもたちが見せる表情や態度を見逃さず、子どもたちの気持ちを代弁したり、子どもたちの発する言葉を共感したりしながらおもしろかった経験を共有し合いたい。



ローラーでコロコロコロ



遊んだ後は、身体をゴシゴシ

教師の支援と児童の様子

次に、本時の個人目標を達成するための教師の支援と児童の様子について述べてみたい。

児童	教師の意図・支援	児童の様子
K男	<p>〈活動をダイナミックに繰り広げるために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんなふうにしてみたら?」「ながーいながーいへびをかいたら?」「壁にぬってもいいよ」と誘いかけたり、違う道具を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけに「うーん!」と言って、まねをしようとする。 ・刷毛、スポンジ、ローラーと道具をかえて楽しむことができた。
T男	<p>〈集中して遊ぶために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手をつないだり、くすぐったりして指導者に気持ちが向くようにする。 ・遊びがとぎれそうになる前に、違う道具を提示したり、違う遊び方を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の身体に絵の具をつけることを楽しんでいた。 ・提示されたことに興味を示し目を輝かせていた。
H子	<p>〈先生や友だちと関わって遊ぶために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グルグルグル」「ペタペタペタ」と歌いかける。 ・手を持って、友だちの手足に絵の具をぬるように誘いかけたり、紙にぬりたくったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムにのって絵の具をぬり歌うように声を出していた。 ・自分の身体に絵の具をぬることに夢中になっていたが、友だちに絵の具をぬられると喜ぶこともあった。
Y子	<p>〈みたてつもりの活動を広げるために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これなーんだ?」「おぼけだぞー!」「……みたいね」と声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みたてつもりの活動が好きなY子だがバケツの中で絵の具を混ぜることばかりに集中していて遊びが広がらなかった。

本時の反省と課題

- ・全員が好きな題材を選び、自由に遊ぶことができる環境を設定することで、夢中になって取り組み、満足感を味わうことができた。
- ・様々な素材や道具を用意することで、自己選択の場ができた。
- ・友だちと楽しさを共感する中で、友だちのまねをして活動が広がったり、苦手なことにも少し挑戦したりすることができた。
- ・絵の具で遊ぶだけではなく、色や形の認識につなげていくための支援も必要であった。
- ・楽しい経験を実生活にどう発展させていくのか、また、遊びと生活とのけじめ（たとえば、絵の具をぬってもよい所といけな所）やルールをどう指導していくかを考えていきたい。

(高田由紀子)